

ふれあい新聞

春号



「かみさの家 入居者さんと一緒に作りました」

発行日 令和 8 年 4 月 1 日 第 101 号
発 行 社会福祉法人 瑞穂会
ふれあい新聞編集部
本 部 〒444-0936
岡崎市上佐々木町字大官 49 番地
T E L (0564) 34-3666
F A X (0564) 34-2347

令和8年度に向けて

社会福祉法人 瑞穂会

特別養護老人ホーム やはぎ苑

業務執行理事 手嶋 孝良



春暖の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より当法人の運営に格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、福祉を取り巻く環境は近年大きな転換期を迎えております。少子高齢化の進行、地域の担い手不足、複雑化する生活課題、そして物価高騰による運営コストの増加など、社会福祉法人に求められる役割は一層多様化し、重みを増しております。

また、国においては「地域共生社会の実現」を掲げ、分野横断的な支援体制の構築、介護・障害福祉サービスの質の向上、処遇改善や業務効率化の推進など、持続可能な福祉制度を目指した改革が進められています。

こうした状況を踏まえ、当法人では本年度を「地域とともに歩む基盤強化の年」と位置づけ、以下の重点施策に取り組んでまいります。

(1) 地域共生社会の実現に向けた連携強化

行政・医療機関・学校・地域住民の皆様との協働をさらに深め、高齢・障害・子供・生活困窮などの分野を超えた支援体制の整備を進め、

地域の“つながり”を再構築し、だれもが安心して暮らせる環境づくりを進めます。

(2) 人材確保と職員の働きやすさの向上

国の処遇改善施策を活用しつつ、研修体系の充実、ICT導入による業務負担軽減、キャリアパスの明確化など、職員一人ひとりが成長し続けられる職場づくりを推進します。

(3) サービスの質の向上と利用者本位の支援

利用者の尊厳を守り、その人らしい生活を支えるため、個別支援計画の充実、リスクマネジメントの強化、虐待防止・権利擁護の徹底に取り組みます。

(4) 法人経営の安定化とガバナンス強化

社会福祉法改正の趣旨を踏まえ、透明性の高い法人運営を行うとともに、財務基盤の安定化、BCP（事業継続計画）の見直し、施設の老朽化対策など、持続可能な経営体制を整えます。

本年度も、地域の皆様にご信頼され、必要とされる法人であり続けるため、職員一同誠心誠意努力してまいります。

引き続き、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



『人の手』による温かい介護について

特別養護老人ホームくわがい

施設長 藤城 みさき

日頃より当施設の運営に対し、ご家族の皆様、そして地域の皆様からご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

平成16年7月、緑豊かなこの地に『特養くわがい』が、岡崎市で最初のユニット型特別養護老人ホームとして開所しました。当時はまだ、個室で寄り添うユニットケアは珍しくすべてが手探りの状態でしたが、開所当時から今日まで、現場を支え続けてくれている職員たちもいます。共に働く仲間が増え、現在では勤続年数10年以上の職員が介護職員全体の約4割を占めています。私たちは、『お一人おひとりの暮らしを大切にする』という理想を掲げ、共に一歩ずつ歩んできました。

それから22年、時代は移り変わり、介護を取り巻く環境も大きく変化してきました。最近の介護現場では、ロボットや「ICT」を活用した効率化が当たり前になりつつあります。しかし、私たちはそうした時代の波に少し乗り遅れているのかもしれない。数年後には、ロボットやICTが導入される時期が到来したとしても、確かにそれらは便利な道具ではありませんが、当施設が大切にしたいのは、『人の手による介護』です。

『人の手による介護』において最も大切なことは、それを形にするための『確かな介護技術』を習得していることです。少しでも多くの職員が『確かな介護技術』を習得し続けることが、当施設をご利用いただいている皆様へ、質の高いケアを提供できることだと信じています。

時代がどれほどデジタルになろうとも、悲しい時に手を握ってくれるのは、ロボットではなく人間であってほしい。私たちはそう願っています。

令和8年度がスタートし、昨今の社会情勢を顧みますと、依然として続く物価高騰や光熱費の上昇など福祉施設を取り巻く経営環境は非常に厳しい局面にあります。また、平成6年度介護報酬改定を経て、さらに今年度の介護報酬改定と、私たち介護現場にはこれまでに以上に「質の高いケア」と「生産性の向上」の両立が求められています。それらの目標に対し、22年培った経験という土台の上に、職員一同、力を合わせて、これからも『人の手』による温かい介護を全力で届けたいと思います。

本年度もよろしくお願い申し上げます。



令和8年度新人職員紹介

- ① 氏名
- ② 配属先
- ③ 長所・特技・趣味
- ④ 抱負



- ① アリヤル ガンガ
- ② やはぎ苑
- ③ まじめで思いやりを持って人と接する事ができます。料理が得意で、音楽鑑賞が好きです。
- ④ 入居者さんの気持ちに寄り添い、安心して過ごせるよう笑顔で丁寧な介護を行い、信頼される職員になりたいです。



- ① 石川 千晶
- ② やはぎ苑
- ③ 長所…コツコツ取り組む
特技…人を笑顔にする事
趣味…愛犬の散歩・ドラマを見る
友人や家族と出かける
- ④ 入居者の方や皆さんに愛されるようなスタッフを目指し、若い力で皆さんを笑顔にしていきたいです。

令和8年度新人辞令交付式



- ① ダマイ ギータ クマリ
- ② やはぎ苑
- ③ 長所…相手のことを考える
趣味…マンダラを書くこと
- ④ 入居者さんのことを知り、入居者さんに寄り添える介助をし、安心と安全に努めています。

かみさの家日記

グループホーム

かみさの家

1月

●新年会を行いました。今年は職員お手製の獅子舞が登場し、舞を披露した後、一人ひとりの頭をガブリ。「新年早々縁起が良いね」「良い一年になりそう」と喜ばれていました。



2月

●節分の日に豆まきを行いました。「鬼は外、福は内」と鬼の的にボールを投げ入れ楽しまれました。おやつは流石に年の数ほどは食べられなかった様子です。



3月

●皆で雛人形の飾り付けを行いました。「これは何段目だったかな」「昔は毎年出したね」など、お話ししながら参加されていました。

玄関の梅の花も同時期に綺麗に咲き、「春が来たね」「暖かくなって来たね」と声が上がっていました。



くわがい

くわがいでは、お年寄りの皆さまに非日常を感じてもらえるよう各ユニットで行事を計画しています。ここ数年はコロナウイルスやインフルエンザといった感染症で行事自体を見送ったこともありましたが、少しでも楽しみの時間を提供したいという職員の思いから、感染症への警戒をしながら計画を立てて実施することができるようになりました。ユニットでは体を動かしたり、大きな声で笑ったり、みんなで協力したり…と当たり前の日常が戻りつつあることを実感しています。長生きの秘訣には「栄養の確保」、「適度な運動」、「規則正しい生活」等がありますが、やっぱり「楽しむ」ことも大切ですね。今年度もお年寄りの皆様の期待に応えられるようなユニット行事を考え、職員も一緒に楽しむ時間を作っていきたいと思います。

今回は、昨年度ユニットで実施したイベントの一部を紹介します。

ミャンマーおやつ作り



美味しく
作るわよ♡

ココナッツミルク寒天



モンローイエポー
※黒糖入り白玉団子

節分（豆まき）



鬼は外！
福は内★

ひな祭り会



私が1番
かわいいでしょ♡

令和7年度採用・特定技能外国人の皆さんの紹介

特別養護老人ホーム くわがい

私の名前はナン・エー・キンです。キンさんと呼んでください

☆日本の印象は・・・「日本人は仕事を

とても頑張っている印象です。

アニメも有名です。」

☆介護をするきっかけは・・・「高齢者

の日常生活の中で、必要なものを

手伝いたいと思いました。」

☆どんな介護士になりたいですか・・・「高齢者のことを自分の家族の

ように思っ、お手伝いできる職員になりたいです。



☆あなたの性格は・・・

「明るく、楽しい」

☆日本で経験したいことはありますか・・・

「大阪城に行きたいです。」

☆将来の夢は何ですか・・・

「日本で介護福祉士を取得して、ミャン

マーで介護施設を開きたいです。」



私の名前はナン・ブワー・ピューです。ナンさんと呼んでください。

☆日本の印象は・・・「日本は綺麗で

技術も進んでいる国だと思います

ます。そして、平和で規律ある

国だと知っています。」

☆介護をするきっかけは・・・

「おじいさん、おばあさんと

話すのが大好きで、介護について学びたいと思いました。」

☆どんな介護士になりたいですか・・・「お年寄りを自分のおじいさん

おばあさんだと思っ、親切に生活のお手伝いができる職員になり

たいです。」



☆日本で経験したいことはありますか・・・

「ドイツ・ニールランドへ行きたいです。」

☆将来の夢は何ですか・・・

「介護福祉士になって

知識を増やしておじいさん

おばあさんの生活の中で

困っていることを助けて



地域密着型小規模特別養護老人ホーム

第二やはぎ苑

小野田さん作

「今号の俳句」

風のまゝ

ゆるるる芽吹き

柳かな



春のおだやかな風景が浮かんでくるような、やさしい句を詠んで下さいました。こんな春のようなおだやかな気持ちをいつも持ち続けていたいと感じます。

eラーニングの活用

第二やはぎ苑では、職員の研修に、ウェブ教材を活用しています。全職員が、動画を中心とした分かりやすい研修を受けながら、スキルアップに努めています。



節分祭

椅子からころげ落ちそうな勢いで豆まきをして下さいました。



きつと、たくさんの福がみなさんのもとへやってくるものと思います。

御殿飾り

今年も立派な御殿飾りを皆さまにご覧いただくことができました。



運営推進会議

地域の皆さま、ご家族様、行政の方などにご参加をいただき、年間六回運営推進会議を開催しています。施設のサービスについて皆さまからご助言等をいただきながら、令和7年度も無事開催ができました。今年度も、「こころで良かった」とご利用の皆さまに感じていただけるようなケアに取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



小規模多機能 やはぎ苑

日頃より小規模多機能やはぎ苑の活動にご理解、ご協力頂きありがとうございます。

小規模多機能「やはぎ苑」では陽気もよくなりましたので、桜見の散策に出掛けました。

乙川沿いの葵桜は凄い人

と駐車スペースがないので通り抜けるだけになりましたが、

苑近くの豊田樹塚の行福寺では立派な枝垂れ桜を見る事ができました。

桜が見えた途端に『わあ〜！！』と歓声があがり、『きれいだね〜』と感激されました。



とてもきれいな桜をご覧になられ、皆さん喜んでみえました。



陽気がよければ苑周辺をお散歩にもお出かけです。

4月には多機能のテラス前に咲く大きな桜を見ながらのお花見屋食会を開催します。
ご自宅ではなかなか外出できない利用者様もみえますので、これからは紫陽花や喫茶外出等を
企画しております。



小規模特別養護老人ホーム

第三やはぎ苑

日頃より皆様方には格別なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。
東三河では深刻な水不足が続いており、高齢者入浴施設が閉鎖となり、岡崎市の協力の元こちらまで入浴に来られると言うニュースがありました。

西三河でも矢作ダム貯水率は、3月31日時点で24.8%と少なく、節水が必要となって来ております。

自然が織りなすこととは言え、介護事業にとっては大変辛い事ではありますが、特に農家さんには大きな痛手になることと思われまます。

本来は雨が続きと憂鬱な気分になりますが、今は一刻も早く水不足が解消されるよう、空の恵みを願っています。



さて毎年同じような話になりますが、当施設が開設し、この5月で10年目に入ります。長いようで短いようで、この時期になると開設準備の時の忙しかったことや、どんな施設を目指そうかと日々思い募らせ、開設が待ち遠しかった自分を思い起こします。今ではあの時思い描いた、自分の目指す施設に近づいて来たのだろうか・・・職員が皆同じ方向を見ているのだろうか・・・そう考える自分がいます。

でもそんなときに入居者の方達と接し、穏やかな様子や笑顔を見るととても心が温かく感じます。多分職員達も同じ気持ちを持って、入居者に接してくれているのでしょう。

ケアというのは私達が入居者に対し行うだけでなく、私達も入居者の方達から心のケアをして頂いている、それが介護のお仕事だと常々感じます。

人は揃って「大変なお仕事ですね」と言われますが、職員一同私も含め、このお仕事に付けたことを日々有難く思っています。

だって、一日の中でこんなに「ありがとう」と言われるお仕事ってそうないですよ。

私からも入居者の方達に「あたたかい気持ちにさせてくれてありがとう」って感謝の気持ちを伝えて行きたいと思っています。



施設長 西井 美恵子

第三やはぎ苑に新しい仲間がやって来ました。

令和6年5月1日生
男の子
チワワのミックス犬です

訳あって飼えなかった方から
引き取って、当施設で保護
しています。
いずれ、里親を探そうと思っ
ています。



今施設では29の方が暮らしています。
最年少は70歳、最高齢は4月で103歳になられます。
皆様、毎日穏やかに暮らしていますよ。



令和7年度の振り返り



春のお花見



七夕祭り



秋祭り



敬老会



元旦お茶会



節分



日々の楽しみ



この他にもたくさん楽しい事ありました。

雪の御嶽山

ケアハウス 佐藤輝己

四十年ほど前の二月だったと思いますが、伊豆方面へ観光バスで旅行した時、雪のかかった美しい富士山が見えました。初めて見た富士山だったので、あまりの感動にバスの窓から振り返り振り返り見えなくなるまで見ていたことがありました。三河に住んでいるとあまり雪に縁がないので、山にかかった雪はたいそう美しく感動しました。

昨年五月一日より、ここやはぎ苑の五階に入居する遠くの山、「あれは御嶽山ではないだろうか。」と思ひ、早速地図を広げて確かめたところ、やはり御嶽山でした。

五月の入居当初は雪がかかっていることはありませんでしたが、「雪がかかればまた美しいだろうな。」と思ひ、その日を待ち遠しく毎日楽しみに眺めていました。でも、毎日見える訳ではなく、北の空が晴れていないと見えません。雲と同化して全く見えない日も何日かあります。



昔スーパーで働いていた頃、同僚が休暇を取って御嶽山に登ってきたそうで、三回登らないとご利益がないと言っていた事を思い出しましたが本当でしょうか。

また、御嶽山を眺めていると、噴火した年もあった事を思い出しました。あの時は突然の噴火で大勢の犠牲者がでました。未だに六名の方が発見されていないそうです。ご遺族の方達の心を思うとやりきれない思いがします。ご自宅からこのお山を見る事が出来る方はともかく、全く見る事が出来ないご遺族の方が居られたら呼び寄せて見せてあげたい。少しは慰めになるだろうかと思ひながら、今朝も遠望ながら静かな美しい雪の御嶽山を眺めています。

「ありがとうございます」

ご寄付・ご寄贈 (令和八年一月〜令和八年三月)

* 産土・長瀬の会 様

編集後記

今号は、ケアハウスの入居者さんの作文を掲載させて頂いていただきました。以前からご自分の部屋から見える景色がとていいよとお話ししてくださいます。建物の5階であり遮るものがない為、夕日もとてもよく見えます。一日の中でふと空を見上げたり遠くを見たりして気分をリセットするのもいいですね